





アフマドは典に った、 切な理解に 格に基いていました。言者ムハンマドが人 にとっての最 の 言者であるという明 な根 を示すクルア ンの でき、彼は文字通り受け止めていました。言者を自称し始めた になり、彼はその を再解 し、それが 言者ムハンマドが人 にとって最 の 言者を意味するのではなく、彼の 言者性が「承 の封印」なのであり、 言者 使徒の美と最善性を示すのであり、最 ではないのだと主 しました。

ミルザは、いくつかのクルア ンの が、彼自身の 大さを示すために 示されたのだとします。彼は、以下の 々が彼のために 示された 々の一部であると主 しています。

1. “言ってやるがいい。「あなたがたがもしアッラ を敬 するならば、わたしに え。” (クルア ン: 31)

2. “われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。” (クルア ン21 : 107)

3. “かれこそは、 きと真理の教えをもって使徒を遣し ” (クルア ン9: 33)

そのような 子で、彼の追 者たちは「教友」となり、彼の家族は「アフルル=バイト (高 な一族)」となり、彼の妻は「信仰者の母」となったのです。

彼は保身のためにこう述べています。

「そうだ。(我々の主 を) 助 するために、クルア ンと 和し、私の『神の 示』に矛盾しない 言者の 承は受け入れるのである。それ以外の 言者の 承に しては、 ぐず同然に てるのだ。」 (口 ハ ニ ハザ イン19 140 )

ムスリムは、クルア ンが神の言 であり、それが大天使ガブリエルを通して 言者ムハンマド (神の慈悲と祝福あれ) に 示されたことを信じます。神はこう述べています。

“本当にわれこそは、その 戒を下し、必ずそれを守 するのである。” (クルア ン15: 9 )

クルア ンの解 は、 にでも されたものではありません。クルア ンの解 には 数の段 があり、その最も高い段 のものがクルア ンによるクルア ンの解 です。二番目の段 は、 言者に

まつわる真正の 承に基づいたクルア ンの解 です。三番目の段 は、教友たちの言 に基づいたクルア ンの解 です。より弱い段 としての四番目の段 は、言 （クルア ンの意味の翻のようなもの）に基づいたクルア ンの解 です。 しもが、好きなようにクルア ンの章句を解 できる では してありません。

## 言者ムハンマド

ミルザの追 者たちは、ミルザが 言者ムハンマドに る存在であると主 します。彼らはこのように述べています。

「 束されたメシア（ミルザのこと）の知的 展は、 言者ムハンマドのそれよりも卓越したものである。そしてそれは 束されたメシアが 言者ムハンマドに して持っている 越性 の か一部に ぎない。 言者の潜在的な知的能力は、文明の欠乏によって完全には されないままだったのである。それは 束されたメシアを通して、文明の と共に完全に されたのである。」（ 宗教の再 、1929年5月、カ ディヤ ニ マズハブ、266 、ラホ ル版）

ミルザは 言者ムハンマドに下された 示の一部は虚 だったのであり、彼は神によって下された 示のいくつかを 解したとして、さらに彼を めます。（ロ ハ ニ ハザ イン3 166 167 ）

さらに彼は、全能なる神と 言者を嘲笑しつつこう述べています。

“そして神は 言者の埋葬の として、酷い 臭のたち めた、暗くて狭い卑しい 所を んたのである。”（ロ ハ ニ ハザ イン17 205 ）

私たちはムスリムとして、 言者ムハンマドを し、敬意を います。私たちは彼に神格性を属したりはしません。神はこう述べています。

“（ムハンマドよ、） 言ってやるがいい。「わたしはあなたがたと同じ、只の人 に ぎない。あなたがたの神は、唯一の神（アッラ ）であることが、わたしに 示されたのである。”（クルア ン18: 110）

ミルザの主 は返答にも ませんが、彼がどのような最 を迎えたかについては特 すべきでしょう。彼はコレラ菌に感染し、公 トイレで ずべき死を遂げたのです。

# ジハド

イスラームにおいて私たちが学ぶ基本の一つに、自己防があります。何者かが危害を加えてくるのであれば、私たちは「反のを差し出す」ということをせず、自らを防します。自己防、そして外部の侵略者に する抵抗の正当性に、 の余地はありません。ひとりとして、「神からの命令だ」と自分手に主 することによってジハドを取り消すことはできないのです。

??  
??  
????????????????????15?114??

彼はこのようにも述べています。「私は若き から、  
65 の 在に至るまで、英国政府のためにペンと舌を 使し、ムスリムたちの心を真の と善意、思いやりへと突き かし、ジハドという概念を 鹿なムスリムたちの心から させるという重要な役割を担い けてきたのである。」  
(キタブルバリヤ、ロハニ ハザイン13 350 )

ミルザは都合の良いことに、ジハドが撤回され、イスラームの一部ではなくなったという示を神によって「下された」と主 しています。  
「本日より、人 による のジハドは神の命令により撤回された。今からカ フィル（非ムスリム）に を振り上げ、自らを神のためのガ ズィ （士）と名 する者は、使徒（ムハンマド）に背くこととなるのである。私の到来により、 のジハドはなくなったのだ。我々は平和と友好の旗を げるのである。」（宣 集3 295 )

脚注:

1 (http://www.islamicparty.com/commonsense/18qadi.htm)

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1737>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。